



沖縄



鹿児島



宮崎



大分



長崎



佐賀



東京



山梨



神奈川



千葉



埼玉



福岡



新潟



群馬



栃木



茨城



福島



高知



富山

役員総出で薬局訪問 **災害時LINEやメールで名簿の呼びかけ**

薬剤師仲間である意識付けを行う **行動あるのみ**

災害時LINEやメールで名簿の呼びかけ

あと4ヶ月できることは全てやる **情熱2倍・活動2倍**

基本に忠実に **公示期間中に全力集中**

愚直にドブ板 **「宣言」** **二次募集開始**

役員の獲得名簿数を公開 **回覧板作戦を追加**

自県の新たな目標設定 **名簿の精度アップ**

班長の再教育 **支部訪問できめ細かな対応**

若手や女性への働きかけ強化 **研修会受付で名簿依頼**

組織引き締め **紹介者欄に名前を印刷し送付**



愛媛



石川



香川



福井



徳島



長野



山口



岐阜



広島



静岡



岡山



愛知



山形



秋田



宮城



岩手



島根



三重



青森



北海道



熊本



鳥取



大阪



滋賀



京都



兵庫



奈良



和歌山

平成30年度

定時評議員会開催される

平成31年3月27日、13時から東京・都
市センターホテルにおいて、平成30年度
定時評議員会が開催された。

畑澤常任総務の司会により、先ず1月
9日に亡くなられた神田熊本県薬剤師会
前会長に黙祷が捧げられた。

山本会長は挨拶の中で、「今年度の最
大の課題が二つある。一つは7月の参議
院選挙。二つ目は、年度末を迎える調剤
報酬改定を日本薬剤師会の考え方を受け
て政治的に支えることだ。本田あきこ後
援会活動について、「10・70・30」の目



標の下に、支援者名簿の収集とコアにな
る方々を育てることだ。30万人の薬剤
師、7万人を超える薬学生、そして先日
誕生した1万人薬剤師の輝ける将来を

作っていくための戦いである。また、薬
機法の改正については我々の将来が掛
かっており、しっかりとロビー活動を
行っていく。地域の中で信頼できる薬剤
師として働ける環境を作ることが日本薬
剤師会の仕事ではあるが、日本薬剤師連
盟としても政治的なバックアップをして
いくことが重要である。このことによっ
て、国民が安心して薬を使っている環
境整備が出来る。さらなる、本田あきこ
氏への支援の輪を広げて戴きたい。」
と述べた。

続いて、松本純衆議院議員は、「まも
なく始まる熱い戦いに皆様と共に取り組
んでいきたい。薬機法の改正も薬局が本
来何をすべきなのかという議論を一年掛
け、法案として提出さ
れた。現在、国会対策
委員会委員長代理とい
う立場で受け止めさせ
てもらっている。本田
あきこ氏へ力を結集し
て行くことが必要であ
ることは言うまでもな
い。」と挨拶した。

藤井基之参議院議員
は挨拶の中で、「3月
13日に山本会長ら幹部
に来て戴き自民党の参
議院政策審議会で、日
本薬剤師会の抱えてい
る問題点、今後の国政
選挙でどのような対応を
取るかという説明を戴
いた。薬剤師が関与し
ている内容を包含して

示し、的確な情報と資料で高い評価を
受けている」ことを報告するとともに、
「二人でも本田あきこ氏への支援者が増
えるよう働きかけていく。」と述べた。
とかしきなおみ衆議院議員は、「薬剤
師の業務は今、大きく変わる。その時ど
の様にハンドルを切るのか決めて戴くの
は皆さん自身だ。薬機法改正案に対す
る要望を私ども政治家に伝えてもらいた
い。そのためには本田あきこ氏が必要で
ある。」と挨拶した。

逢坂誠二衆議院議員からは、「社会的
に見て今問題なのは人口減少だ。このま
まだと地域が無くなる。そして社会保
障・医療・福祉も厳しい状況になる。こ
れに立ち向かうのが政治の大きな課題で
ある。参議院選挙は厳しい。私の立場か
ら本田あきこ氏への支援をお願い申し
上げて、応援のご挨拶とする。」と述べ
た。

引き続き、金安議長、明石副議長が登
壇し、石井副会長から重要事項の経過報
告、尾島副会長からハラスメント防止指
針の件が説明された。
その後、報告第1号平成30年度会務並
びに事業中間報告、平成31年度事業計
画、平成31年度責任負担金賦課額、平成
31年度責任負担金単価及び減免措置、平
成31年度収入支出予算、平成31年度借入
金最高限度額について議案上程され、質
疑応答の後、採決が行われ、すべての報
告・議案が賛成多数で承認された。続け
て協議に移り、本田あきこ支援活動につ
いて説明と意見交換が行われた。最後に
安東副会長から閉会の挨拶が行われ、会
議が終了した。

「本田あきこ」激励会を開催

本田あきこ中央後援会主催の「本田あ
きこ激励会」が平成30年度定時評議員会
終了後に約250名が参加し、開催され
た。会場はイメーヅカラーのオレンジの
ジャケットとハチマキでオレンジ一色に
染まった。

松本純衆議院議員の激励挨拶の後、手
代木功製薬産業政治連盟会長、鹿目広行
日本農業政治連盟会長、大塚陸毅健康保
険政治連盟会長からのメッセージが荻野
副会長から紹介された。3名は、それぞ
れの立場から本田あきこ氏への期待を述
べるとともに、引き続きの支援を約束し
た。

引き続き、木平健治本田あきこ中央後
援会副会長・日本病院薬剤師連盟会長か
ら、日本病院薬剤師連盟は一丸となって
支援体制を組み、支援者名簿の収集に具
体的に取り組んでいると激励した。同じ
く近藤由利子本田あきこ中央後援会副
会長・日本女性薬剤師連盟会長から、木
平健治会長の激励の言葉で「これほど真剣
に、力強い言葉を聞いたことがない。私
たちも本気である。負けること無く行動
していくと激励の言葉を述べた。

藤井基之参議院議員は参議院本会議か
ら駆け付け、予算が成立し、薬事関連法
案が国会提出されたことを報告すると共
に政治の必要性を具体的に取上げて激
励の挨拶を行った。

会場が暗くなり「You raise me up」が
流れ、「ホンダー!ホンダー!ホンダー!」の
かけ声上がる。すると入り口のドアが
開くとスポットライトの中から本田あき
こ氏が登場。橋本・小屋敷企画実行委員
が露払い役を務め、本田あきこ氏が再び
壇上に上がった。「組織内候補と決まっ

てから約2年間、全国訪問で様々な事柄
を現場から学びました。そして、皆さま
から更なるお力をお貸し頂けるよう、精
進して参りました。統一地方選挙の応援
にも力を注ぎ、4月中旬からは政令指定
都市などへの訪問も始めます。これから
の4ヶ月間、業界の皆さま、支援団体

の皆さま、今後とも引き続きよろしくお
願い申し上げます。共に頑張っていま
しょう!」と力強い決意表明が述べら
れた。
岩本副会長の閉会の辞の後、全員が一
丸となって支援することを誓い合い散会
となった。



全国会長・幹事長拡大会議 開催される！

平成31年4月23日(火)、グランドプリンスホテル高輪に於いて第1回総務会に引き続き、第1回全国会長・幹事長拡大会議が開催された。

司会は浜田常任総務。山本会長より、「薬剤師が必要な職業が問われていることに多くの薬剤師自身気がついていない。今、7万人の薬学生が薬剤師を目指している。我々は何を残してあげられるか？薬の安全を守るには薬剤師の職能。もう3か月、まだ3か月と考えて出来る限りの行動していただきたい。」と挨拶があった。続いて会場から司会者一任を受けて座長に北海道の竹内伸仁氏を指名した。

最初に報告事項があった。「平成31年度事業計画・会議の予定」、「全国支部訪問の結果」と今後の日程、「支援者名簿の収集状況」、「名簿収集行動計画を踏まえての活動」、最後に「都道府県における選挙期間中の活動」について担当役員から報告された。

特に選挙期間中の活動については都道府



県において作成された選挙活動計画の原案を踏まえ、本田あきこ本人は熊本のみ活動となるため、ブロック総務(幹事)と本後援会の役員で検討し、候補者代理として活動を行うと説明があった。

次に、電話作戦、選挙ハガキ・ポスター・ビラ、街宣車等12の協議事項について説明があった。

まず始めに岩本幹事長より、選挙期間中と公示前の必要な準備について大まかな話があり、続いて各担当役員より詳しい説明がなされた。特に今回はネット選挙が活発に行われているが、本田あきこホームページ、本田あきこの部屋(Facebookページ)の閲覧、本田あきこメールマガジンの登録を増やしてほしいと説明があった。

以上を受けて活発な質問や要望などがなされ、会場がヒートアップし、選挙モードになっていくのが感じられた全国会長・幹事長拡大会議が終了となった。

本田あきこ中央後援会「総会」 開催される！

平成31年4月23日(火)、本田あきこ中央後援会の総会がグランドプリンスホテル高輪「プリンスルーム」にて午後5時30分より開催された。都道府県薬剤師連盟の会長・幹事長、支援者団体でいっぱいの会場は、オレンジ色のベスト、ハチマキ、ハッピーで埋め尽くされた。

本田あきこ中央後援会岩本副会長の司会により、まず、山本会長から候補者を車のメーカーにたとえたウィットにとんだ挨拶があった。次に、国会議員による激励の言葉を会場への到着順に、松本純衆議院議員、藤井基之参議院議員、とかしきなおみ衆議院議員、最後に自民党の薬剤師問題議員懇談会会長である伊吹文明衆議院議員より頂いた。

続いて支援団体の登壇者が一人一人紹介され、その後支援団体を代表して日本薬業政治連盟の鹿目広行会長から、本田あきこ氏がアルフレッサに勤務していたことが紹介され、勤務薬剤師としての経験が生かされると激励があり、最後まで気を抜くことなく頑張りましょう!と結んだ。

たくさんの激励を受けて、本田あきこ氏より決意表明がなされた。「残り3ヶ月精一杯頑張ります!現場の思いを強い信念を持って発信していきたい!皆様の更なるご支援をよろしくお願いいたします!」と熱い思いが伝えられた。

最後に、企画実行委員会の榎方委員と小屋敷委員による「本気だ!本田!!」コールが行われ、オレンジ色のうねりとなって残り3ヶ月に向けた総会が閉会となった。



もとゆき Report 藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
自由民主党組織運動本部本部長代理・参議院議員
藤井もとゆき

薬剤師の働き方改革

5月1日、令和天皇が即位され新しい時代の幕が開きました。平成は戦争の無い平和な時代でしたが、阪神淡路・東日本大震災をはじめ、多くの自然災害に見舞われました。また、少子高齢化に伴い増大する社会保障費の財源確保と財政規律の立て直しが最大の課題となりました。令和の時代、災害に強い国づくりを進めるとともに、人生100年時代に対応した社会システムを構築し、国民の誰もが安心して暮らせる社会にしていかなければなりません。

さて、昨年7月に公布された働き方改革関連法案の一部が4月から施行され、36協定で定める時間外労働の上限を定め、違反した場合には罰則が適用されることとなりました。

また、厚生労働省は4月2日、薬局における調剤業務のあり方について、薬剤師の行う対人業務を充実する観点から、薬剤師以外の者に実施させることが可能な業務の基本的な考え方を通知しました。通知では、調剤に最終的な責任を有する薬剤師の指示に基づき、当該薬剤師の目の届く限度の場所において、処方箋に基づいて調剤した薬品の品質に影響がなく、結果として薬剤を服用する患者に危害を及ぼすことのないこと。及び、当該業務を行う者が、判断を加える余地に乏しい機械的作業であること。その全ての条件を満たす業務に限り、薬剤師以外の者が実施して差し支えないとしています。そして、その具体的な例として、処方箋に記載されているPTP包装された医薬品の必要量を取り揃える行為、薬剤師の監査前に行う一包化した薬剤の数量を確認する行為を挙げています。

勿論、これらの業務が調剤業務の範囲外とされたわけではなく、あくまで薬剤師の薬学的知見と責任のもと、薬剤師以外の者に任せても良いとされているのであって、これ以上の何物でもないはずで。

薬物療法の適正化と安全性がより求められるなか、調剤業務の効率化や機械化等による生産性向上を図り、薬剤師の対人業務の充実を図っていくことが必要となっています。

編集後記

選挙イヤーの幕明け、春の陣が終わった。編集後記を書く手がどうにも重い。我が地元 大阪ではご存知の通りの結果となり、選挙は民意であるというのは正しいのかどうか考えさせられる地方選挙であった。本当に民意が反映されているのか、そもそも民意って何なのか。

インターネットが日常にこれだけ浸透してきて、また選挙権が18歳以上に引き下げられて、確実に選挙のありかたは変わってきている。選挙カーで候補者の名前を連呼するより、SNSでアピールする方が若者にはイメージは浸透すると実感した。もし自分が特に政治に興味のない人間だったら、街中で候補者のいない選挙カーで聞く名前より、SNSで見たい印象の良いイケメン候補に投票してしまうだろうな、と思ってしまったりする。

また多くの候補者が出るような地方選挙では、候補者の街頭演説を聞いていても皆、同じことを言っているだけ、「〇〇市を住み良い街にします!」「医療、介護、福祉、教育、災害に強い〇〇候補をよろしく!」(、、、そんな完璧なわけない!)実際、投票所の目の前の名前の順番や位置で得票数が変わってしまうことも多々。実力と得票数はまったく別物なのか、、、実力よりイメージなのか、、、本当に考えさせられる結果であった。

そうこう言っても、すぐに夏の陣がやってくる。組織力の勝負であることはもちろんだが、薬剤師に対する信頼がアップするように、日常業務に邁進することもとても大切だと思う。

よーし!がんばるぞー!!

広報委員

- 安東 哲也、石井 甲一
- 小野 春夫、鳥海 良寛
- 大澤 泰輔、大原 整
- 近藤直緒美、渡邊美知子

(N・K)